

平成24年1月1日から令和3年12月31日までに当科で脳腫瘍に対する手術を受けられた患者さんへ

当院では「脳腫瘍克服のために新規治療標的及びバイオマーカー創出に向けた遺伝子解析」という研究を実施しています。この研究では当院でこれまでに診療した脳腫瘍の患者さんの検体を解析することにより、治療困難な患者さんに対する治療法の選択や新しい治療法の開発が期待されます。

【研究目的】

多くの脳腫瘍は手術、化学療法、放射線療法を中心とした集学的治療が行われていますが、いまだ難治性の高い疾患であり、原因なども含めて解明していません。近年大規模な遺伝子解析が病態の解明、新規治療薬の開発に重要な役割を示しており、これらの情報が患者さんの治療成績の向上につながると考えられています。本研究では、従来の病理診断に加え、患者さんから手術で摘出した脳腫瘍の遺伝子解析をおこない、特徴的な遺伝子異常を同定し腫瘍化をもたらす機序の解明、適切な治療法の選択を検討していくことを目的としています。

【研究対象】

平成24年1月1日から令和3年12月31日の間に当院で脳腫瘍に対する手術を受けられた方の（1）既に手術で切除した脳腫瘍の組織で診療に必要な検査等を終了した試料（本来は捨てられる組織）と（2）病理診断や治療内容などの病気に関する臨床情報（年齢、性別、症状、身体所見、検査所見、手術所見、治療経過、生存機関、画像所見（CT、MRI、PETなど）を含む）の2点を本研究に使用させていただきます。

【研究の方法】

治療・診断の為に切除された脳腫瘍の診療後の残った試料を用いて、遺伝子解析を行います。それによって明らかとなった遺伝子の異常と臨床情報を分析することで、診断・治療効果の判定や治療の標的となる分子を発見することを目指します。

なお、このような研究では、数多くの試料を扱い、高度な解析機器を使用するだけでなく、膨大な量の遺伝情報を収集して研究者間で広く共有することが求められます。そこで本研究では、他の研究機関と協力体制を組んでおり（多施設共同研究）、解析のために、共同研究機関である東京医科歯科大学、国立がん研究センター研究所、筑波大学に試料や情報が提供されることがあります。得られた研究結果の一部は個人情報かわからないようにして、日本DNAデータベースに登録します。このことにより医学研究全体が推進され、新規技術の開発が進むとともに、様々な病気について今まで不可能であった疾患の原因の解明や治療法・予防法の確立に貢献することを目指します。

【本研究の研究期間】

倫理審査委員会承認後から令和5年3月31日まで

【個人情報の保護について】

研究にあたっては研究協力者の皆様に不利益が生じないように個人情報の保護、プライバシーの尊重に努力し最大限の注意を払います。皆様の試料（資料）を分析する際には、氏名・住所・生年月日などの個人情報を取り除き、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で（連結可能匿名化）、厳重に保管致します。また試料（資料）の分析から得られる遺伝子の情報（遺伝情報）についても、個人識別が可能にならないよう厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底致します。また、本研究では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に定める生殖細胞系列のヒトゲノム・遺伝子解析研究は含まれておりません。得られた結果は遺伝するものではないため、この情報によって不当な差別につながる可能性はありません。

本研究は通常の診療ですで行われた検査、治療の結果、検体をもとに行うもので、患者さんに対して研究目的に新たに治療や検査が行われるわけではありません。患者さんには研究主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、本研究に参加するかどうかは任意であり、研究に参加しなくても不利益を被ることはありません。

この掲示ポスターで研究について同意をいただいたものとして研究を進めます。研究への参加を希望されない場合や質問がございましたら主治医にお申し出いただくか下記へご連絡ください。

研究者連絡先 武蔵野赤十字病院 脳神経外科
副部長 荻島 隆浩

〒180-8610 東京都武蔵野市境南町 1-26-1
電話：0422-32-3111（平日 9:00～17:00）

実施責任者 武蔵野赤十字病院 副院長
脳神経外科 部長 玉置 正史